

(2) かんきつ

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
1 黒点病 <i>Diaporthe citri</i> <i>Diaporthe</i> spp. (軸腐病)	1. 病原菌は枯枝で越冬し、伝染源になるので枯れ枝を見つけ、切り取る。 2. 切り取った枯枝は適切な処分をする。 3. 間伐、整枝せん定を適正に行い、樹幹内部への採光を図る。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 伊予柑、甘夏に対しては、エムダイファー水和剤、ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤は他剤との混用により、薬害を生じることがあるので単用で使用する。 2. 梅雨期には固着性の高い展着剤を加用する。 3. コサイド3000は炭酸カルシウム水和剤（クレフノンまたはアプロン）を加用する。 4. 降雨による残効期間の目安は、エムダイファー水和剤、ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤の場合、散布後の降水量250～300mmである。	5月下旬 ～6月上旬 6月下旬 ～7月上旬 8月中旬 ～9月中旬	11 29 M1 M1 M1 M1 M1 M1 M1 M3 M3 M3 M9 3・11 1・M3 3・M3 M9・7	ストロビードライフロアブル フロンサイドSC コサイド3000 ICボルドー66D オキシンドー水和剤80 キノンドー水和剤40 キノンドー水和剤80 キノンドー顆粒水和剤 キノンドーフロアブル クミガーDSC ジマンダイセン水和剤 ペンコゼブ水和剤 エムダイファー水和剤 デランフロアブル (混)ナティーボフロアブル (混)ラビライト水和剤 (混)テーク水和剤 (混)セルカディスDフロアブル
	5. フロンサイドSC使用上の注意 ・皮膚にかぶれを生じることがあるので、散布後7～10日以内の入園はしない。 ・ハウスでは使用しない。 ・レモンには使用しない。 6. フロンサイドSCは、ミカンハダニ、ミカンサビダニにも登録がある。 7. 黒点病菌による軸腐病（貯蔵病害）の防除のためにも、黒点病防除を徹底する。 8. デランフロアブル使用上の注意 ・開花期以降のマシン油乳剤との混用散布は薬害を生じるおそれがあるので避ける。 ・開花期以降の使用する場合は、マシン油乳剤との散布間隔を30日程度あけること。 ・夏期以降の散布は、果皮に薬害を生じるおそれがあるので避ける。 ・収穫後長期貯蔵する中晩柑には果皮に斑点が発生することがあるので使用しない。 ・機能性展着剤（アブローチBIなど）の加用は薬害を生じるおそれがあるので避ける。 9. ストロビードライフロアブルは浸透性を高める効果のある展着剤は薬害のおそれがあるので使用しない。 10. ICボルドー66Dの注意事項はかいよう病の項を参照。 11. キノンドー水和剤40、キノンドーフロアブル、ラビライト水和剤は、みかんに登録がある。 12. セルカディスDフロアブルの使用上の注意はデランフロアブルを参照。 13. キノンドー顆粒水和剤は石灰硫黄合剤、水和硫黄剤等との混用は避ける			
2 そうか病 <i>Elsinoe fawcettii</i>	1. 窒素質肥料の過用を避け、徒長を防ぐ。 2. 霧の発生しやすいところ、風当たりの強いところへの栽植を避け、防風垣、あるいは防風樹を植付ける。 3. 病斑のある枝梢や葉はできる限り切り取る。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 発病のひどいところでは、6月下旬～7月上旬にも散布する。 2. ICボルドー66Dの注意事項はかいよう病の項を参照。 3. ストロビードライフロアブル、デランフロアブル、フロンサイドSCの注意事項は黒点病の項を参照。 4. トップジンM水和剤、ベンレート水和剤、ベルクート水和剤、キノンドー水和剤40、キノンドーフロアブル、ベルクート水和剤、ラビライト水和剤は、みかんに登録がある。 5. トップジンM水和剤はかんきつにも登録があるが、かんきつではそうか病は適用病害ではない。 6. セルカディスDフロアブル・デランフロアブル使用上の注意 ・開花期以降のマシン油乳剤との混用散布は薬害を生じるおそれがあるので避ける。 ・開花期以降の使用する場合にはマシン油乳剤との散布間隔を30日程度あけること。 ・夏期以降の散布は果皮に薬害を生じるおそれがあるので避ける。	4月下旬 ～5月上旬 5月下旬 ～6月上旬	1 1 3 3 7 7 7 7 11 11 29 M1 M1 M1 M1 M1 M1 M1 M7 M9 10・1 11・7 1・M3 3・M3 M1・M1 M9・7	トップジンM水和剤 ベンレート水和剤 オーシャイン水和剤 マネージD フルーツセイバー パレード15フロアブル カナメフロアブル ロンセラフロアブル ストロビードライフロアブル ファンタジスタ顆粒水和剤 フロンサイドSC クプロシールド オキシンドー水和剤80 クミガーDSC キノンドー水和剤40 キノンドーフロアブル キノンドー顆粒水和剤 ムッシュボルドーDF ICボルドー66D ベルクート水和剤 デランフロアブル (混)ゲッター水和剤 (混)ナリアWDG (混)ラビライト水和剤 (混)テーク水和剤 (混)キンセット水和剤80 (混)セルカディスDフロアブル
	・収穫後長期貯蔵する中晩柑に使用する場合は、貯蔵中、果皮に斑点が発生することがあるので使用しない。 ・機能性展着剤（アブローチBIなど）の加用は薬害を生じるおそれがあるので避ける。			

農薬の使用法や注意事項はラベルで確認する

かんきつ

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
3 かいよう病 <i>Xanthomonas citri</i> subsp. <i>citri</i>	1. 風当たりの強いところへの栽植を避ける。 2. 防風垣あるいは防風樹を植える（施設栽培では発生が少ない）。 3. ミカンハモグリガ（エカキムシ）防除を徹底する。 4. 罹病した夏秋梢は、除去する。 5. 土壌改良など適正な肥培管理を行い、樹勢を健全に保つ。 （薬剤使用の特記事項） 1. 夏柑、ネーブル、伊予柑などは本病に弱い。 2. 台風前後には必ず散布する。 3. コサイド3000、ムッシュボルドーDF、フジドーLフロアブルは炭酸カルシウム水和剤（クレフノンまたはアブロン）を加用する。 4. 薬害のおそれがあるので、コサイド3000は4月の散布を避ける。 5. ICボルドー使用上の注意 ・石灰硫黄合剤、有機リン剤、マシン油乳剤等を混用すると薬効を減じ、薬害を起こす原因となるので混用しないこと。 ・マシン油乳剤を散布した園でICボルドー66Dを使用する場合は、1か月以上あけて散布する。 ・散布直後に降雨があると薬害が発生しやすいので注意すること。 ・新梢伸長期には石灰による葉焼けを生じるおそれがあるので使用を避けること。 ・梅雨明け以降の夏季高温時の散布は、薬害（スターメラノーズ）を生じるおそれがあるので使用を避けること。 ・樹勢の弱い樹や異常気温が予想される場合は、落葉を助長するおそれがあるので使用しないこと。	発 芽 前 （ 3 月 中 旬 ）	M1 M1 M1 M1 M1 24・M1 24・M1	コ サ イ ド 3 0 0 0 ム ッ シ ュ ボ ル ド ー D F ク プ ロ シ ー ル ド I C ボ ル ド ー 6 6 D フ ジ ド ー L フ ロ ア ブ ル ク ミ ガ ー ド S C （ 混 ） カ ス ミ ン ボ ル ド ー （ 混 ） カ ッ パ ー シ ン 水 和 剤
		発病前 ～発病初期	－(生)	（ 生 ） マ ス タ ピ ー ス 水 和 剤
		9 月 中 旬	41 U18 M1 M1 M1 24・M1 24・M1 M1・M1 NC・M1	マ イ コ シ ー ル ド バ リ ダ シ ン 液 剤 5 コ サ イ ド 3 0 0 0 ク プ ロ シ ー ル ド ク ミ ガ ー ド S C （ 混 ） カ ス ミ ン ボ ル ド ー （ 混 ） カ ッ パ ー シ ン 水 和 剤 （ 混 ） キ ン セ ッ ト 水 和 剤 8 0 （ 混 ） ジ ー ファ イ ン 水 和 剤
4 灰色かび病 <i>Botrytis cinerea</i>	1. 施設では過湿にならないよう注意する。 （薬剤使用の特記事項） 1. ストロビードライフロアブル、フロンサイドSCの注意事項は黒点病の項参照。 2. トップジンM水和剤、ベンレート水和剤、ラビライト水和剤、スミブレンド水和剤、スミレックスくん煙顆粒は、みかんに登録がある。 3. トップジンM水和剤はかんきつにも登録があるが、かんきつでは灰色かび病は適用病害ではない。 4. 開花期の防除では、開花期間が長く、花と幼果が混在している場合や、花と前作の果実が混在している場合は、使用時期の収穫前日数が短い薬剤を選び、開花期限定の薬剤は使用しない。 5. セルカディスDフロアブルの注意事項についてはそうか病の項を参照。	満開時～落弁期 ウツユミカン： 5月中旬～ 中晩柑： 5月上旬～ （開花期は年次 間差があるので 注 意 する）	1 1 2 3 7 7 7 7 7 11 11 29 M1 M7 M7 10・1 1・M3 10・2 3・M3 M7・19 11・7 9・12 M9・7	ト ッ プ ジ ン M 水 和 剤 ベ ン レ ー ト 水 和 剤 ス ミ レ ッ ク ス 水 和 剤 オ ー シ ャ イ ン 水 和 剤 フ ル ー ツ セ イ バ ー カ ナ メ フ ロ ア ブ ル パ レ ー ド 1 5 フ ロ ア ブ ル ロ ン セ ラ ー フ ロ ア ブ ル ス ト ロ ビ ー ド ラ イ フ ロ ア ブ ル フ ァ ン タ ジ ス タ 顆 粒 水 和 剤 フ ロ ン サ イ ド S C キ ノ ン ド ー 顆 粒 水 和 剤 ベ ル ク ー ト 水 和 剤 ベ ル ク ー ト フ ロ ア ブ ル （ 混 ） ゲ ッ タ ー 水 和 剤 （ 混 ） ラ ビ ラ イ ト 水 和 剤 （ 混 ） ス ミ ブ レ ン ド 水 和 剤 （ 混 ） テ ー ク 水 和 剤 （ 混 ） ポ リ ベ リ ン 水 和 剤 （ 混 ） ナ リ ア W D G （ 混 ） ス イ ッ チ 顆 粒 水 和 剤 （ 混 ） セ ル カ デ ィ ス D フ ロ ア ブ ル
		ハウス内防除 （ くん 煙 ）	2	スミレックスくん煙顆粒
		ハウス内防除 （ダクト内投入）	BM2	（ 生 ） ボ ト キ ラ ー 水 和 剤

かんきつ

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
5 褐色腐敗病 <i>Phytophthora citrophthora</i> <i>P. citricola</i>	1. 園内の排水をよくする。 2. 汚濁水を灌水に使用しない。 3. 敷わらを行い、雨水の飛散を防ぐ。 4. 発病果は園内から除去する。 5. 水田転換園並びに中晩柑類に発生が多い。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 伊予柑、甘夏に対してはジマンダイセン水和剤は他剤との混用により、薬害を生じることがあるので単用で使用する。 2. ストロビードライフロアブルは浸透性を高める効果のある展着剤は薬害のおそれがあるので使用しない。 3. リドミルゴールドMZ は、みかんに登録がある。	8月下旬 ～収穫期	11 21 P7 M3 43・40 M3・4	ストロビードライフロアブル ランマンフロアブル アリエッティ水和剤 ジマンダイセン水和剤 (混)ジャストフィットフロアブル (混)リドミルゴールドMZ
6 炭疽病（さび果病） <i>Colletotrichum gloeosporioides</i> <i>C. fioriniae</i> <i>C. siamense</i> <i>C. truncatum</i>	1. 枯れ枝や枯れ葉を除去する。 2. 園内の通風をよくする。 3. 袋かけや紙片を果面に貼り付ける。 4. 8～9月にかけて無機成分の葉面散布剤を数回散布する。 5. 日焼けによる発病は、南西傾斜面で耕土が浅い園や直立枝に結実している果実に発生が多い。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. デランフロアブルの注意事項は黒点病の項を参照。		M9 3・11 11・7	デランフロアブル (混)ナティーボフロアブル (混)ナリアWDG
7 貯蔵病害 (青かび病) <i>Penicillium italicum</i> (緑かび病) <i>Penicillium digitatum</i> (黒腐病) <i>Alternaria citri</i>	1. 果実をていねいに収穫する。 2. 収穫は晴天の日を選んで行い、降雨直後の収穫は避ける。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. トップジンM水和剤は、施設栽培のかんきつ（みかんを除く）には使用しない。	収穫前10～30日	1 1 3 M7	トップジンM水和剤 ベンレート水和剤 オーシャイン水和剤 ベルクトフロアブル
8 白紋羽病 <i>Rosellinia necatrix</i> 紫紋羽病 <i>Helicobasidium mompa</i>	1. 作物がない場合、禾本科の作物を3～4年栽培し、石灰などを施して有機物の分解を促進させる。 2. 前作物の罹病根は集めて処分する。 3. 小面積の場合は、焼土法を行うのもよい。 4. 栽植に当たっては、発病のおそれがあるところは植穴に粗大有機物などの埋没をしない。	作物が被害を受けた場合		被害株を抜き取り、跡地を消毒する
9 切り口の枯れ込み防止	1. 土作りを行い、樹勢を健全に保つ。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. トップジンMペーストには、切り口の枯れ込み防止のほかに、ゆ合を促進する効果もある。	整枝せん定時	1	トップジンMペースト
10 ステムピッチング病（ハッサク萎縮病）（CTV）	1. 穂木は無毒樹またはトリステザ弱毒系ウイルス樹（20年生以上）から採穂する。 2. 温州ミカンを中間台木として高接更新しない。 3. ミカンクロアブラムシの防除を徹底する。 4. 土壌改良など、適正な肥培管理を行い、樹勢を健全に保つ。 5. 接木伝染と虫媒伝染する。			
11 温州萎縮病（SDV）モザイク病（CiMV）	1. 穂木は無毒樹から採穂する。 2. 発病樹は速やかに伐採し、根を残さないように集め、掘取跡を利用して、焼土する。 3. 接木伝染と土壌伝染する。			
12 エクソコーティス病（CEVd）	1. 無病樹から採穂する。 2. せん定器具は水酸化ナトリウム2%、ホルマリン2%を含む混合液に数秒間浸漬し、水洗して用いれば、健全樹への伝染が防止できる。 3. 接木伝染する。			

農薬の使用法や注意事項はラベルで確認する

かんきつ

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
13 越冬害虫 カイガラムシ類 ミカンハダニ	1. 寄生密度の高い枝を切り落とす。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 樹勢が弱っている樹には使用しない。 2. ボルドー液等のアルカリ性薬剤やジチアノン剤、T P N剤等の水和剤および銅剤との混用は避ける。 3. ジチアノン剤との近接散布は果実に薬害を生じる危険があるので避ける。 4. 本虫対象に防除を実施しているところでは、コナジラミ類、ロウムシ類の発生が少ない。	12月中旬 ～1月下旬	UNM UNM UNM UNM UNM UNM	機 械 油 乳 剤 9 5 ト モ ノ ー ル ト モ ノ ー ル S ア タ ッ ク オ イ ル ス ピ ン ド ロ ン 乳 剤 ス プ レ ー オ イ ル ハ ー ベ ス ト オ イ ル
		3 月 中 旬	UNM UNM UNM UNM UNM	ア タ ッ ク オ イ ル ス ピ ン ド ロ ン 乳 剤 ス プ レ ー オ イ ル ト モ ノ ー ル S ハ ー ベ ス ト オ イ ル
14 ヤノネカイガラムシ	1. 寄生密度の高い枝を切り落とす。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 有機リン剤（RACコード：1B）の散布適期は2 齢幼虫の最多寄生期である。 2. アブロード水和剤とアブロードフロアブルの効果は幼虫に対して遅効的であり、成虫に効果がないので注意する。 3. カルホス乳剤、エルサン水和剤4 0 は、みかんに登録がある。	6 月 中 下 旬 (第1世代幼虫)	1A 1B 1B 1B 4A 4A 4C 9B 16 16 23 21A・16	オ リ オ ン 水 和 剤 4 0 カ ル ホ ス 乳 剤 エ ル サ ン 水 和 剤 4 0 エ ル サ ン 乳 剤 モ ス ピ ラ ン 顆 粒 水 溶 剤 モ ス ピ ラ ン S L 液 剤 ト ラ ン ス フ ォ ー ム フ ロ ア ブ ル コ ル ト 顆 粒 水 和 剤 ア ブ ロ ー ド 水 和 剤 ア ブ ロ ー ド フ ロ ア ブ ル モ ベ ン ト フ ロ ア ブ ル (混)アブロードエースフロアブル
		8 月 中 下 旬 (第2世代幼虫)	1B 1B 1B 4A 4A 4C 23	カ ル ホ ス 乳 剤 エ ル サ ン 水 和 剤 4 0 エ ル サ ン 乳 剤 ア ル バ リ ン 顆 粒 水 溶 剤 ス タ ー ク ル 顆 粒 水 溶 剤 ト ラ ン ス フ ォ ー ム フ ロ ア ブ ル モ ベ ン ト フ ロ ア ブ ル
15 ナシマルカイガラムシ (サンホーゼカイガラムシ)	1. 寄生密度の高い枝を切り落とす。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. アブロード水和剤の効果は幼虫に対して遅効的であり、成虫に効果がないので注意する。 3. カルホス乳剤、エルサン水和剤4 0 は、みかんに登録がある。	6 月 中 下 旬 (第1世代幼虫)	1A 1B	オ リ オ ン 水 和 剤 4 0 カ ル ホ ス 乳 剤
		8 月 中 旬 (第2世代幼虫)	1B 1B 4A 16	エ ル サ ン 水 和 剤 4 0 エ ル サ ン 乳 剤 ダ ン ト ツ 水 溶 剤 ア ブ ロ ー ド 水 和 剤
16 イセリヤカイガラムシ	1. 寄生密度の高い枝を切り落とす。 2. 4月中旬にベダリアテントウを放飼す 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 防除時期を逃さないようにする。 2. カルホス乳剤は、みかんに登録がある。	6 月 中 下 旬	1B 4C	カ ル ホ ス 乳 剤 ト ラ ン ス フ ォ ー ム フ ロ ア ブ ル
17 コナカイガラムシ類	1. 寄生密度の高い枝を切り落とす。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. アブロード水溶剤、アブロードフロアブルの効果は幼虫に対して遅効的であり、成虫に効果がないので注意する。 2. 苗木の防除は果樹参考3参照。 3. カルホス乳剤は、みかんに登録がある。	6 月 中 下 旬 7月下旬 ～8月上旬	1A 1B 1B 1B 4A 4A	オ リ オ ン 水 和 剤 4 0 ス ミ チ オ ン 乳 剤 カ ル ホ ス 乳 剤 エ ル サ ン 乳 剤 ア ド マ イ ヤ ー フ ロ ア ブ ル ア ド マ イ ヤ ー 顆 粒 水 和 剤
		6 月 中 下 旬 7月下旬 ～8月上旬	4A 4A 4A 4A 4A 4A 4C	モ ス ピ ラ ン 顆 粒 水 溶 剤 モ ス ピ ラ ン S L 液 剤 ア ク タ ラ 顆 粒 水 溶 剤 ダ ン ト ツ 水 溶 剤 ア ル バ リ ン 顆 粒 水 溶 剤 ス タ ー ク ル 顆 粒 水 溶 剤 ト ラ ン ス フ ォ ー ム フ ロ ア ブ ル

農薬の使用法や注意事項はラベルで確認する

かんきつ

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
		6 月 中 下 旬 7月下旬 ～8月上旬	9B 16 16 21A	コ ル ト 顆 粒 水 和 剤 ア プ ロ ード 水 和 剤 ア プ ロ ード フ ロ ア ブ ル ハ チ ハ チ フ ロ ア ブ ル
18 ルビーロウムシ	1. 寄生密度の高い枝を切り落とす。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 防除時期を逃さないようにする。	7 月 上 中 旬	4A	ア ク タ ラ 顆 粒 水 溶 剤
19 ツノロウムシ	1. 寄生密度の高い枝を切り落とす。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 防除時期を逃さないようにする。 2. カルホス乳剤は、みかんに登録がある。 3. アクタラ顆粒水溶剤は、ロウムシ類に登録がある。	7 月 中 旬 (2 齢幼虫まで)	1B 4A 4A 4A	カ ル ホ ス 乳 剤 モ ス ピ ラ ン 顆 粒 水 溶 剤 ア ク タ ラ 顆 粒 水 溶 剤 ダ ン ト ツ 水 溶 剤
20 ミカンネコナカイガラムシ	1. 石灰を入れて土壌pHを5.5～6.0に矯正する。			
21 ミカンハダニ	〈薬剤使用の特記事項〉 1. 殺ダニ剤に対する抵抗性の発達を抑えるため、同一系統の農薬の使用回数を年1回とする。 2. 低密度の時にていねいに散布する。 3. マシン油乳剤を使用する場合には次のことに注意する。 ・高温時及び樹勢の弱い園での使用を避ける。 ・開花後にボルドー液を散布した園では使用しない。 4. マイトクリーン、カネマイトフロアブルをハウス栽培では使用しない。 5. 薬害のおそれがあるので、コロマイト水和剤を中晩柑(清見、甘夏、日向夏)の着色始期以降に使用しない。 6. 本虫対象にサンマイト水和剤で防除を実施しているところでは、ミヤケハダニの発生が少ない。 7. ニッソラン水和剤、バロックフロアブルは遅効性で成虫には効果がないので注意する。 8. エコピタ液剤、フーモン、サフオイル乳剤は害虫に直接かからないと効果がないので、ムラなく丁寧に散布する。 9. マブリックジェットは、みかんに登録がある。 10. ビレスロイド系剤(RACコード3A)の注意事項 ・蚕毒が特に強いので注意する。 ・散布後、ハダニ類が増えることがあるので注意する。	6 月 発 生 初 期 (1 葉当たり 0.5～1 頭)	UNM UNM UNM UNM UNM UN	ア タ ッ ク オ イ ル ス ピ ン ド ロ ン 乳 剤 ス プ レ ー オ イ ル ト モ ノ ー ル S ハ ー ベ ス ト オ イ ル モ レ ス タ ン 水 和 剤
		7月上旬 ～8月下旬 発 生 初 期 (1 葉当たり 0.5～1 頭)	6 15 23 23 10A 10B 20B 20D 21A 21A 21A 23 25A 25A 25B 33 － － － 6・10B 10B・－ 25A・21A 25B・21A	コ ロ マ イ ト 水 和 剤 カ ス ケ ー ド 乳 剤 ダ ニ エ モ ン フ ロ ア ブ ル ダ ニ ゲ ッ タ ー フ ロ ア ブ ル ニ ッ ソ ラ ン 水 和 剤 バ ロ ッ ク フ ロ ア ブ ル カ ネ マ イ ト フ ロ ア ブ ル マ イ ト コ ー ネ フ ロ ア ブ ル ダ ニ ト ロ ン フ ロ ア ブ ル ピ ラ ニ カ 水 和 剤 サ ン マ イ ト 水 和 剤 モ ベ ン ト フ ロ ア ブ ル ス タ ー マ イ ト フ ロ ア ブ ル ダ ニ サ ラ バ フ ロ ア ブ ル ダ ニ コ ン グ フ ロ ア ブ ル ダ ニ オ ー テ フ ロ ア ブ ル エ コ ピ タ 液 剤 フ ー モ ン サ フ オ イ ル 乳 剤 (混)メビウスフロアブル (混)ダニメツフロアブル (混)スターマイトプラスフロアブル (混)ダブルフェースフロアブル
		10月上旬 ～11月上旬 発 生 初 期	12C 15 UNM	オ マ イ ト 水 和 剤 カ ス ケ ー ド 乳 剤 ハ ー ベ ス ト オ イ ル
		ハウス内防除 (くん煙)	3A 3A	マ ブ リ ッ ク ジ ェ ッ ト ロ デ ィ ー く ん 煙 顆 粒

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

かんきつ

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
22 ミカンサビダニ	〈薬剤使用の特記事項〉 - 多発生の場合には9月にも薬剤を散布する。 - 抵抗性発達のおそれがあるので、薬剤の選択に注意する。 - 水和硫黄剤（イオウフロアブル、コロナフロアブル、サルファーゾル）は、28℃以上の高温時には使用しない。 - 葉害のおそれがあるので、コロマイトを中晩柑（清見、甘夏、日向夏）の着色始期以降に使用しない。 - ダニトロンフロアブル、サンマイト水和剤には交差抵抗性があるので注意する。 - カネマイトフロアブルはハウス栽培では、開花期以降使用しない。 - イデクリーン水和剤、園芸ボルドーは新梢、葉に対する薬害軽減のため、炭酸カルシウム水和剤を加用する。 - グレーシアフロアブルは天敵に影響があり、ミカンハダニが増加する可能性がある。 - ミネクトエクストラSCはアルカリ性の農薬や肥料との混用により有効成分が分解するおそれがあるので混用は避ける。	発 生 期 (7月上中旬、 8月中下旬)	1B 6 6 6 10B 13 15 19 20B 20D 21A 21A 21A 23 23 23 30 34 34 UN UN UN UN UN・－ UN・－ 4A・15 6・10B 21A・16 25A・21A 25B・21A 28・15	エ ル サ ン 乳 剤 コ ロ マ イ ト 水 和 剤 ア ニ キ 乳 剤 ア グ リ メ ッ ク バ ロ ッ ク フ ロ ア ブ ル コ テ ツ フ ロ ア ブ ル マ ッ チ 乳 剤 ダ ニ カ ッ ト 乳 剤 2 0 カ ネ マ イ ト フ ロ ア ブ ル マ イ ト コ ー ネ フ ロ ア ブ ル ダ ニ ト ロ ン フ ロ ア ブ ル サ ン マ イ ト 水 和 剤 ハ チ ハ チ フ ロ ア ブ ル ダ ニ エ モ ン フ ロ ア ブ ル ダ ニ ゲ ッ タ ー フ ロ ア ブ ル モ ベ ン ト フ ロ ア ブ ル グ レ ー シ ア フ ロ ア ブ ル フ ァ イ ン セ ー ブ フ ロ ア ブ ル ア ベ ン ジ ャ ー フ ロ ア ブ ル モ レ ス タ ン 水 和 剤 イ オ ウ フ ロ ア ブ ル コ ロ ナ フ ロ ア ブ ル サ ル フ ァ ー ゾ ル (混)イデクリーン水和剤 (混)園芸ボルドー (混)リーズン顆粒水和剤 (混)メビウスフロアブル (混)アプロードエースフロアブル (混)スターマイトプラスフロアブル (混)ダブルフェースフロアブル (混)ミネクトエクストラSC
23 チャノホコリダニ	1.被害枝は回復しないので、せん除し、被害果は早期に摘果する。 2.レモン、アンコール等に発生が多く、温州みかんにも発生する。 3.ハウス栽培での発生が多い。 〈薬剤使用の特記事項〉 - 発生初期の低密度時に散布する。 - 葉害のおそれがあるので、コロマイト水和剤を中晩柑（清見、甘夏、日向夏）の着色始期以降に使用しない。 - フロンサイドSCの注意事項は黒点病の項を参照。 - カネマイトフロアブルはハウス栽培では、開花期以降使用しない。 - グレーシアフロアブルは天敵に影響があり、ミカンハダニが増加する可能性がある。	発 生 初 期	6 6 13 23 23 23 20B 21A 21A 25A 29 30 34 UN 6・10B 21A・16 25A・21A	コ ロ マ イ ト 水 和 剤 ア グ リ メ ッ ク コ テ ツ フ ロ ア ブ ル ダ ニ エ モ ン フ ロ ア ブ ル ダ ニ ゲ ッ タ ー フ ロ ア ブ ル モ ベ ン ト フ ロ ア ブ ル カ ネ マ イ ト フ ロ ア ブ ル ピ ラ ニ カ 水 和 剤 ハ チ ハ チ フ ロ ア ブ ル ス タ ー マ イ ト フ ロ ア ブ ル フ ロ ン サ イ ド S C グ レ ー シ ア フ ロ ア ブ ル フ ァ イ ン セ ー ブ フ ロ ア ブ ル モ レ ス タ ン 水 和 剤 (混)メビウスフロアブル (混)アプロードエースフロアブル (混)スターマイトプラスフロアブル
24 ミカンハモグリガ (エカキムシ)	1.せん定時期に、前年の被害葉を除去する。 2.過剰な施肥や強せん定を控え、新梢の発生を一斉にすると、防除回数の軽減につながる。 〈薬剤使用の特記事項〉 - 発芽展葉期から緑化完了期までに重点防除を行う。 - 新葉の伸長に応じて散布する。	発 生 期 (6月中旬～ 9月上旬まで 3～7日間隔)	1A 1B 1B 1B 3A 3A 3A 3A 3A 3A	オ リ オ ン 水 和 剤 4 0 カ ル ホ ス 乳 剤 エ ル サ ン 水 和 剤 4 0 エ ル サ ン 乳 剤 ア デ ィ オ ン 乳 剤 ア グ ロ ス リ ン 乳 剤 サ イ ハ ロ ン 水 和 剤 ス カ ウ ト フ ロ ア ブ ル ス カ ウ ト 乳 剤

農薬の使用法や注意事項はラベルで確認する

防除法	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
病害虫名	3.カルロス乳剤、エルサン水和剤40、サイハロン水和剤、アフーム乳剤、ビリーブ水和剤はみかんに登録がある。 4.ノーモルト乳剤、マッチ乳剤、カスケード乳剤は脱皮阻害剤なので若齢幼虫発生期に散布する。 5.ノーモルト乳剤は、みかん、なつみかんに登録がある。 6.ハウスミカンにはアフーム乳剤を7月以降に散布しない。 7.苗木の防除は果樹参考3参照。 8.ピレスロイド系剤(RACコード3A)の注意事項 ・蚕毒が特に強いので注意する。 ・散布後、ハダニ類が増えることがあるので注意する。 9.ミネクトエクストラSCはアルカリ性の農薬や肥料との混用により有効成分が分解するおそれがあるので混用は避ける。	発生期 (6月中旬～9月上旬まで 3～7日間隔)	3A	ロ デ イ ー 乳 剤
			3A	テ ル ス タ ー 水 和 剤
			3A	マ ブ リ ッ ク 水 和 剤 2 0
			3A	マ ブ リ ッ ク E W
			3A	ト レ ボ ン 乳 剤
			3A	バ イ ス ロ イ ド E W
			4A	ア ド マ イ ヤ ー フ ロ ア ブ ル
			4A	ア ド マ イ ヤ ー 顆 粒 水 和 剤
			4A	モ ス ピ ラ ン 顆 粒 水 溶 剤
			4A	モ ス ピ ラ ン S L 液 剤
			4A	ア ク タ ラ 顆 粒 水 溶 剤
			4A	ダ ン ト ツ 水 溶 剤
			4A	ア ル バ リ ン 顆 粒 水 溶 剤
			4A	ス タ ー ク ル 顆 粒 水 溶 剤
			5	ス ピ ノ エ ー ス フ ロ ア ブ ル
			5	デ イ ア ナ W D G
			6	ア ニ キ 乳 剤
			6	ア フ ァ ー ム 乳 剤
			6	ア グ リ メ ッ ク
			15	ノ ー モ ル ト 乳 剤
			15	マ ッ チ 乳 剤
			15	カ ス ケ ー ド 乳 剤
			28	フ ェ ニ ッ ク ス 顆 粒 水 和 剤
			28	エ ク シ レ ル S E
			3A・15	(混) ビリーブ水和剤
			3A・1B	(混) スミロディー乳剤
			4A・15	(混) リーズン顆粒水和剤
			6・10B	(混) メビウスフロアブル
			28・15	ミネクトエクストラSC
25 ハマキムシ類	〈薬剤使用の特記事項〉 1.ミクロデナボン水和剤85はみかんに登録がある。 2.ピレスロイド系剤(RACコード3A)の注意事項 ・蚕毒が特に強いので注意する。 ・散布後、ハダニ類が増えることがあるので注意する。	発生期 (5月上中旬、7月上中旬、9月中下旬)	1A	ミクロデナボン水和剤85
			1A	オリオン水和剤40
			1B	エルサン乳剤
			3A	ロ デ イ ー 乳 剤
			5	デ イ ア ナ W D G
			11A	ト ア ロ ー 水 和 剤 C T
			11A	ゼ ン タ ー リ 顆 粒 水 和 剤
			11A	デルフィン顆粒水和剤
			11A	エ ス マ ル ク D F
			11A	ク オ ー ク フ ロ ア ブ ル
			11A	ファイブスター顆粒水和剤
			11A	チューンアップ顆粒水和剤
26 アブラムシ類	1.下草、周辺雑草を処分する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1.巻葉ができないうちに早めに散布する。 2.ミクロデナボン水和剤85、サイハロン水和剤、モスピランジェットは、みかんに登録がある。ただしローズ・ブーランミクロデナボン水和剤85はアブラムシに登録が無い。 3.ピレスロイド系剤(RACコード3A)の注意事項 ・蚕毒が特に強いので注意する。 ・散布後、ハダニ類が増えることがあるので注意する。 4.合成ピレスロイド剤を使用する際、地域によっては感受性の低下がみられるので注意する。 5.本虫対象に初春にアグロスリンで防除を実施しているところでは、クワゴマダラヒトリの発生が少ない。 6.苗木の防除は果樹参考3参照。 7.キラップは施設栽培及び着色期以降での使用は、薬害を出すおそれがあるので使用しない。	発生期	1A	ミクロデナボン水和剤85
			1A	オリオン水和剤40
			2B	キラップフロアブル
			3A	ア デ イ オ ン 乳 剤
			3A	ア グ ロ ス リ ン 水 和 剤
			3A	ア グ ロ ス リ ン 乳 剤
			3A	サイハロン水和剤
			3A	ロ デ イ ー 水 和 剤
			3A	ロ デ イ ー 乳 剤
			3A	テ ル ス タ ー 水 和 剤
			3A	テ ル ス タ ー フ ロ ア ブ ル
			3A	マ ブ リ ッ ク 水 和 剤 2 0
			3A	マ ブ リ ッ ク E W
			4A	ア ド マ イ ヤ ー フ ロ ア ブ ル
			4A	ア ド マ イ ヤ ー 顆 粒 水 和 剤
			4A	モ ス ピ ラ ン 顆 粒 水 溶 剤
			4A	モ ス ピ ラ ン S L 液 剤
			4A	ベ ス ト ガ ー ド 水 溶 剤
			4A	ア ク タ ラ 顆 粒 水 溶 剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

かんきつ

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
	8. エコピタは害虫に直接かからないと効果がないので、ムラなく丁寧に散布する。	発 生 期	4A 4A 4A 4C 9B 21A 29 - 3A・1B	ダ ン ト ツ 水 溶 剤 ア ル バ リ ン 顆 粒 水 溶 剤 ス タ ー ク ル 顆 粒 水 溶 剤 ト ラ ン ス フ ォ ー ム フ ロ ア ブ ル コ ル ト 顆 粒 水 和 剤 ハ チ ハ チ フ ロ ア ブ ル ウ ラ ラ 5 0 D F エ コ ピ タ 液 剤 (混) ス ミ ロ デ ィ ー 乳 剤
		ハウス内防除 (く ん 煙)	4A	モ ス ピ ラ ン ジ ェ ッ ト
27 アゲハ類	1. 卵、幼虫を捕殺する。 2. 苗木の防除は果樹参考3参照。 3. ノーモルト乳剤は、みかん、なつみかんに登録がある。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. アクセルフロアブルはヨモギエダシャクにも登録がある。 2. ミネクトエクストラSCはアルカリ性の農薬や肥料との混用により有効成分が分解するおそれがあるので混用は避ける。	発 生 期 (5月中旬 ～10月下旬)	1A 4A 4A 4A 5 6 11A 15 15 22B 28 28 28 4A・15 28・15	オ リ オ ン 水 和 剤 4 0 モ ス ピ ラ ン 顆 粒 水 溶 剤 モ ス ピ ラ ン S L 液 剤 ダ ン ト ツ 水 溶 剤 デ ィ ア ナ W D G ア ニ キ 乳 剤 チ ュ ー ン ア ッ プ 顆 粒 水 和 剤 ノ ー モ ル ト 乳 剤 マ ッ チ 乳 剤 ア ク セ ル フ ロ ア ブ ル フ ェ ニ ッ ク ス 顆 粒 水 和 剤 フ ェ ニ ッ ク ス フ ロ ア ブ ル エ ク シ レ ル S E (混) リ ー ズ ン 顆 粒 水 和 剤 ミ ネ ク ト エ ク ス ト ラ S C
28 コナジラミ類	1. 夏秋梢の発生を少なくするような栽培管理を行う。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. アブロード水和剤の効果は幼虫に対して遅効的であり、成虫に効果がないので注意する。 2. エルサン水和剤40の登録はミカンコナジラミでの、エルサン乳剤の登録はミカンコナジラミとミカントゲコナジラミでの、アブロード水和剤の登録はミカントゲコナジラミ若齢幼虫での適用である。 3. エルサン水和剤40はみかんに登録がある。	6月中旬 ～7月上旬 8 月 中 下 旬	1B 1B 4A 4A 4A 4A 4A 5 9B 16 23	エ ル サ ン 水 和 剤 4 0 エ ル サ ン 乳 剤 ア ド マ イ ヤ ー 顆 粒 水 和 剤 モ ス ピ ラ ン S L 液 剤 ダ ン ト ツ 水 溶 剤 ア ル バ リ ン 顆 粒 水 溶 剤 ス タ ー ク ル 顆 粒 水 溶 剤 デ ィ ア ナ W D G コ ル ト 顆 粒 水 和 剤 ア プ ロ ー ド 水 和 剤 モ ベ ン ト フ ロ ア ブ ル
29 ナメクジ類 カタツムリ類	1. コイル状にした銅線を主幹部に幅広く巻きつける。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. ICボルドー66Dはかいよう病等との同時防除または主幹への散布(忌避効果)する。 2. アグリメックは、ナメクジ類に登録がある。	発 生 前	6 - - - -	ア グ リ メ ッ ク マ イ キ ラ ー L ナ メ ク リ ー ン 3 ム ッ シ ュ ボ ル ド ー D F I C ボ ル ド ー 6 6 D
30 カネタタキ	〈薬剤使用の特記事項〉 1. キラップフロアブルは施設栽培及び着色期以降での使用は、薬害を出すおそれがあるので使用しない。 2. グレーシアフロアブルは天敵に影響があり、ミカンハダニが増加する可能性がある。 3. ピレスロイド系剤(RACコード3A)の注意事項 ・ 蚕毒が特に強いので注意する。 ・ 散布後、ハダニ類が増えることがあるので注意する。	7月中旬 ～8月下旬	1A 2B 3A 3A 3A 13 21A 30	オ リ オ ン 水 和 剤 4 0 キ ラ ッ プ フ ロ ア ブ ル テ ル ス タ ー フ ロ ア ブ ル ロ デ ィ ー 乳 剤 ア ー ク リ ン 水 和 剤 コ テ ツ フ ロ ア ブ ル ハ チ ハ チ フ ロ ア ブ ル グ レ ー シ ア フ ロ ア ブ ル

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

防除法	病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
			防除時期	RACコード 薬 剤	
31 ゴマダラカミキリ（カミキリムシ）	1. 5月末までに0.1mmのポリフィルム、ビニールまたは新聞紙（3枚重ね以上）などを主幹部に巻く。 2. 6～9月に成虫を捕殺する。 3. 産卵期からふ化時に園内を見まわり、卵及び幼虫を刺殺する。	<薬剤使用の特記事項> ●6月中下旬（成虫）は樹全体だけでなく主幹にも散布する。 1. グレーシアフロアブルは天敵に影響があり、ミカンハダニが増加する可能性がある。 ●6月下旬～7月上旬（産卵防止）、7月中下旬（食入防止）は次のとおり。 1. 葉や果実にかからないように注意する。 2. ガットキラー乳剤、サッチューコートS、ガットサイドSはみかん、なつみかんに登録がある。ラベキラー乳剤、トラサイドA乳剤のみかんに登録がある。 3. 苗木の防除は果树参考3参照。 4. ピレスロイド系剤(RACコード3A)の注意事項 ・蚕毒が特に強いので注意する。 ・散布後、ハダニ類が増えることがあるので注意する。 5. ミネクトエクストラSCはアルカリ性の農薬や肥料との混用により有効成分が分解するおそれがあるので混用は避ける。	6月中旬下旬（成虫）	1A 1B 4A 4A 4A 4A 4A 21A 22B 28 30 4A・15 28・15	オリオン水和剤40 エ ル サ ン 乳 剤 アドマイヤーフロアブル アドマイヤー顆粒水和剤 モスピラン顆粒水溶剤 モスピランSL液剤 アクタラ顆粒水溶剤 ダン ト ツ 水 溶 剤 ハチハチフロアブル アクセルフロアブル エ ク シ レ ル S E グレーシアフロアブル （混）リーズン顆粒水和剤 ミネクトエクストラSC
			6月下旬 ～7月上旬 （産卵防止） 7月中下旬 （食入防止）	1B 1B 1B 3A 3A 4A 4A 22B 1B・1B 1B・1B	ガ ッ ト キ ラ ー 乳 剤 サ ャ ュ コ ー ト S ガ ッ ト サ イ ド S 園芸用キンチョールE ロ ビ ン フ ヅ ド モスピラン顆粒水溶剤 モスピランSL液剤 アクセルフロアブル （混）ラベキラー乳剤 （混）トラサイドA乳剤
32 コアオハナムグリケシキシイ類	1.シルバーマルチやアルミ蒸着フィルムを樹間に帯状に設置する。	<薬剤使用の特記事項> 1. ミクロデナボン水和剤85は、みかんのコアオハナムグりに登録がある。 2. ケシキシイの多いところでは有機リン剤（RACコード：1B）を使用する。 3. 開花期の防除では、開花期間が長く、花と幼果が混在している場合や、花と前作の果実が混在している場合は、使用時期の収穫前日数が短い薬剤を選び、開花期限定の薬剤は使用しない。 4. ピレスロイド系剤(RACコード3A)の注意事項 ・蚕毒が特に強いので注意する。 ・散布後、ハダニ類が増えることがあるので注意する。	5月中旬旬	1A 1A 1B 3A 3A 3A 3A 3A 3A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 28 3A・1B	マイクロデナボン水和剤85 オリオン水和剤40 ス ミ チ オ ン 乳 剤 ア グ ロ ス リ ン 乳 剤 ス カ ウ ト 乳 剤 ロ デ ィ ー 乳 剤 マブリック水和剤20 アークリン水和剤 マ ブ リ ッ ク E W モスピラン顆粒水溶剤 モスピランSL液剤 アクタラ顆粒水溶剤 ダン ト ツ 水 溶 剤 アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 エ ク シ レ ル S E （混）シミロディー乳剤
33 チャノキイロアザミウマ	1.光反射シートを地表面に全面マルチする。	<薬剤使用の特記事項> 1.サイハロン水和剤、ピリーブ水和剤、アフーム乳剤は、みかに登録がある。 2. グレーシアフロアブルはアザミウマ類で登録がある。 3. ハウスミカンにはアフームを7月以降に散布しない。 4. キラップは、施設栽培及び着色期以降での使用は、薬害を出すおそれがあるので使用しない。 5. グレーシアフロアブルは天敵に影響があり、ミカンハダニが増加する可能性がある。 6. ピレスロイド系剤(RACコード3A)の注意事項 ・蚕毒が特に強いので注意する。 ・散布後、ハダニ類が増えることがあるので注意する。	6月中旬旬 7月上旬旬 7月中下旬 8月中下旬	1A 2B 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 4A 4A	オリオン水和剤40 キラップフロアブル ア デ ィ オ ン 乳 剤 ア グ ロ ス リ ン 水和剤 ア グ ロ ス リ ン 乳 剤 アークリン水和剤 サイハロン水和剤 スカウトフロアブル ス カ ウ ト 乳 剤 ロ デ ィ ー 水和剤 ロ デ ィ ー 乳 剤 テルスター水和剤 テルスターフロアブル マブリック水和剤20 マ ブ リ ッ ク E W アークリン水和剤 バイスロイドEW アドマイヤーフロアブル アドマイヤー顆粒水和剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

防除法	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
病害虫名	7. ミネクトエクストラSCはアルカリ性の農薬や肥料との混用により有効成分が分解するおそれがあるので混用は避ける。	6 月 中 旬	4A	モ ス ビ ラ ン 顆 粒 水 溶 剤
		7 月 上 旬	4A	モ ス ビ ラ ン S L 液 剤
		7 月 中 下 旬	4A	ベ ス ト ガ ー ド 水 溶 剤
		8 月 中 下 旬	4A	ア ク タ ラ 顆 粒 水 溶 剤
			4A	ダ ン ト ツ 水 溶 剤
			4A	ア ル バ リ ン 顆 粒 水 溶 剤
			4A	ス タ ー ク ル 顆 粒 水 溶 剤
			5	ス ピ ノ エ ー ス フ ロ ア ブ ル
			5	デ イ ア ナ W D G
			6	ア ニ キ 乳 剤
			6	ア フ ァ ー ム 乳 剤
			6	ア グ リ メ ッ ク
			9B	コ ル ト 顆 粒 水 和 剤
			13	コ テ ツ フ ロ ア ブ ル
			15	マ ッ チ 乳 剤
			15	カ ス ケ ー ド 乳 剤
			21A	ハ チ ハ チ フ ロ ア ブ ル
			23	モ ベ ン ト フ ロ ア ブ ル
			23	ダ ニ ゲ ッ タ ー フ ロ ア ブ ル
			28	エ ク シ レ ル S E
			29	ウ ラ ラ 5 0 D F
			30	グ レ ー シ ア フ ロ ア ブ ル
			34	フ ァ イ ン セ ー プ フ ロ ア ブ ル
			34	ア ベ ン ジ ャ ー フ ロ ア ブ ル
			UN	ジ マ ン ダ イ セ ン 水 和 剤
			UN	ベ ン コ ゼ プ 水 和 剤
			3A・15	(混) ビ リ ー ブ 水 和 剤
			3A・1B	(混) ス ミ ロ デ ィ ー 乳 剤
			4A・15	(混) リ ー ズ ン 顆 粒 水 和 剤
			6・10B	(混) メ ビ ウ ス フ ロ ア ブ ル
			28・15	ミ ネ ク ト エ ク ス ト ラ S C
34 ミカンキイロアザミウマ	1. ハウスみかんに発生する。 2. ハウスの開口部に防虫ネット（1mm目合以下）をはり、成虫の飛来を軽減する。 3. 圃場周辺及びハウス内の雑草処理を徹底する。 4. ハウスの出入口を開放しない。 5. 青色粘着テープを吊るしておくで発生時期の把握に有効である。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 密度が高くなると防除効果が劣るので、低密度時での散布を心がける。 2. 露地ミカンの開花後に密度が急増するので注意する。 3. アファーム乳剤は、みかんに登録がある。 4. グレーシアフロアブルはアザミウマ類に登録がある。 5. ハウスミカンにはアファームを7月以降に散布しない。 6. グレーシアフロアブルは天敵に影響があり、ミカンハダニが増加する可能性がある。 7. ピレスロイド系剤(RACコード3A)の注意事項 ・ 蚕毒が特に強いので注意する。 ・ 散布後、ハダニ類が増えることがあるので注意する。	5 月 中 旬 ～ 7 月	1A	オ リ オ ン 水 和 剤 4 0
			4A	ア ド マ イ ヤ ー 顆 粒 水 和 剤
			4A	モ ス ビ ラ ン 顆 粒 水 溶 剤
			4A	モ ス ビ ラ ン S L 液 剤
			4A	ベ ス ト ガ ー ド 水 溶 剤
			4C	ト ラ ン ス フ ォ ー ム フ ロ ア ブ ル
			5	ス ピ ノ エ ー ス フ ロ ア ブ ル
			5	デ イ ア ナ W D G
			6	ア フ ァ ー ム 乳 剤
			6	ア グ リ メ ッ ク
			13	コ テ ツ フ ロ ア ブ ル
			34	フ ァ イ ン セ ー プ フ ロ ア ブ ル
			34	ア ベ ン ジ ャ ー フ ロ ア ブ ル
			21A	ハ チ ハ チ フ ロ ア ブ ル
			29	ウ ラ ラ 5 0 D F
			30	グ レ ー シ ア フ ロ ア ブ ル
			3A・1B	(混) ス ミ ロ デ ィ ー 乳 剤
			6・10B	(混) メ ビ ウ ス フ ロ ア ブ ル
		ハ ウ ス 内 防 除 (常 温 煙 霧)	13	コ テ ツ フ ロ ア ブ ル
35 ワタミヒゲナガゾウムシ	1. ハウスみかんに発生する。 2. 収穫後から翌年の摘果期にかけて、落果や摘果等によって地面に放置された果実を処分する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 主として落果、摘果、裂果、腐敗した果実に寄生する。 2. 着色開始期10～30日前から収穫期の間で本虫の発生が多い場合には、落果、摘果、裂果、腐敗などした果実を処分すると、健全果への加害を促すおそれがある。 3. ピレスロイド系剤(RACコード3A)の注意事項 ・ 蚕毒が特に強いので注意する。 ・ 散布後、ハダニ類が増えることがあるので注意する。	発 生 期	3A	テ ル ス タ ー 水 和 剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

かんきつ

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
36 カメムシ類	1. 早生温州は被害を受けやすい。 2. 園の周辺やスギ、ヒノキ等の防風林が発生源になりやすいので注意する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 夜間に飛来するため、散布は夕方に行う。 2. エルサン粉剤3DL、サイハロン水和剤は、みかんに登録がある。 3. ピレスロイド系剤(RACコード3A)の注意事項 ・ 蚕毒が特に強いので注意する。 ・ 散布後、ハダニ類が増えることがあるので注意する。	8 月 ～ 10 月	1B 1B 1B 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 3A・1B	スミチオン乳剤 エルサン乳剤 エルサン粉剤3DL アデイオン乳剤 アグロスリン水和剤 アグロスリン乳剤 サイハロン水和剤 ロデイエー乳剤 テルスター水和剤 マブリック水和剤20 マブリックEW アドマイヤーフロアブル アドマイヤー顆粒水和剤 アクタラ顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 モスピランSL液剤 (混) スミロディー乳剤
37 果実吸蛾類 アケビコノハ アカエグリバ ヒメエグリバ等	1. ネットをはって、吸汁害を防ぐ。 2. 夜間、園地を見まわって成虫を捕殺する。 3. 黄色蛍光灯を点灯する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. ロデイエー乳剤、アグロスリン水和剤は、アケビコノハ、ヒメエグリバに適用がある。 2. ピレスロイド系剤(RACコード3A)の注意事項 ・ 蚕毒が特に強いので注意する。 ・ 散布後、ハダニ類が増えることがあるので注意する。	発 生 期	3A 3A	ロデイエー乳剤 アグロスリン水和剤
38 クワゴマダラヒトリ	1. 8月下旬に果樹園周辺のクワ、アカメガシワ、カラスザンショウ(カラスノサンショウ)などの産卵植物を伐採する。 2. 10月上旬に産卵植物上の巣網を採集し、処分する。 3. 果樹園周辺の産卵植物にも注意する。 4. 越冬後は園内及び周辺の雑草にも注意する。 5. カンキツにも産卵することがあるので、巣網の発生に注意する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. カルホス乳剤は、みかんのクワゴマダラヒトリ若齢幼虫に適用があり、若齢期までに散布する。	10月上旬～11月 (巣 網 期) 3月上旬～5月 (越冬後幼虫期)	1A 1B 11A 11A 11A	オリオン水和剤40 カルホス乳剤 デルフィン顆粒水和剤 エスマルクDF ファイブスター顆粒水和剤
39 ケムシ類	〈薬剤使用の特記事項〉 1. グレーシアフロアブルは天敵に影響があり、ミカンハダニが増加する可能性がある。 2. ピレスロイド系剤(RACコード3A)の注意事項 ・ 蚕毒が特に強いので注意する。 ・ 散布後、ハダニ類が増えることがあるので注意する。	発 生 期	1A 3A 5 11A 11A 11A 28 28 28 30	オリオン水和剤40 ロデイエー乳剤 デИАナWDG デルフィン顆粒水和剤 エスマルクDF ファイブスター顆粒水和剤 フェニックスフロアブル フェニックス顆粒水和剤 エクシレルSE グレーシアフロアブル
40 ハスモンヨトウ	1. 卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。	発 生 初 期	5 13 28	デИАナWDG コテツフロアブル フェニックスフロアブル

農薬の使用法や注意事項はラベルで確認する